



しものせき海峡まつり 4年ぶりの外八文字

5月2日～4日、しものせき海峡まつりが開催されました。豪華な衣装をまとった太夫や稚児たちが市内を練り歩く上臈道中や、赤間神宮での上臈参拝が行われる等、4年ぶりにほぼコロナ前の形での開催となり、3日間で約31万6千人もの市民や観光客で賑わいました。



下関ゆかりの作家 生誕120年展示会開催中

明治36年に生まれた金子みすゞ、中本たか子、林芙美子は、今なお文学的に評価されている下関ゆかりの作家です。この3人の作品や関連資料を田中絹代ぶんか館で展示しています。同館吉田学芸員は「3人の作品などを一挙に見ることができます。中本たか子の直筆の原稿は、他では見ることができません。林芙美子の三等旅行記は、下関から出発した旅行の経費が詳しく書かれていて、面白いですよ」と、展示会の魅力を語りました。（展示会詳細18頁）

パナグループと地域活性化包括連携協定を締結



市とパナグループは、地域活性化を推進するために、包括連携の協定を締結しました。これから、お互いに連携・協力しながら「地域共創プロジェクト」を展開していきます。「地域共創プロジェクト」では、地域の社会課題解決に取り組む人材や企業の誘致・交流を促進し、地域に根差した新産業創造と雇用創出、豊かな生き方・働き方を実現できる街づくりに取り組みます。さらに連携を強化するため、下関市では初となる国の地域活性化起業人制度を活用し、同社から瀬川康弘さんを派遣社員として受け入れました。

◆ 地域活性化起業人に就任した瀬川康弘さん

下関市出身の瀬川さんは、兵庫県淡路島で10年以上にわたり地方創生事業を推進してきたパナふるさとインキュベーションの前社長として、廃校活用のほか農業者の育成や古民家を改装したカフェの開設などを手がけてきました。4月から瀬川さんは豊北総合支所地域政策課に着任。今後は、豊北地域の活性化を図るために、最長3年間、空き物件を活用した移住促進などの取り組みのほか、下関ならではの産品や地域性を活かした地域企業の持続的な成長発展や雇用創出、地方創生の実現促進を担います。

